

2008年2月29日

活性化委員会緊急アピール

関西テレビ活性化委員会

関西テレビの皆さんへ

今回、北京五輪に関する不適切な番組情報リリースの問題など関西テレビ社内に見られる一連の混乱を受けて、活性化委員会より関西テレビの皆さんに緊急に申し上げたいことがあります。

現在の事態が「あるある大事典」の時以上の危機であるという認識は当委員会も共有しています。しかしだからこそ、どうか自分たちの取り組みに自信を持ち、落ち着いて事態に対処して下さい。

当委員会は、昨年7月の発足以来、3回の会合と役員・社員との懇談会を開き、その間、2度の報告書を受領し子細に検討を重ねるなど、関西テレビの再生への歩みをずっと見つめ続けてきました。

先日発表した当委員会見解にも示したように、関西テレビの再生への取り組みについて、「施策はおおむね順調に実行されている」との認識は変わっていません。

もちろん、経営機構改革に関してはいくつかの点について早急に改善や検証を求める、という思いは変わりませんが、一つ一つの業務の中において、これまでの皆さんの再生にかける決意や取り組みが間違っていたわけでは決してありません。

ただ、見解の最後に申し上げた「様々な制度については、その制度に魂を入れるのは人である、との認識のもと不断の努力を続けられたい。」という一文については、是非もう一度深く心に刻み込んで頂きたい、と切に望んでいます。

そして、なぜこのような事態になっているのか、皆さん一人一人が自分のこととして考えて、これから何が出来なのか自問自答した上で、当委員会に思いを伝えて頂きたいのです。私たちもそれを精一杯受け止め、その思いを関西テレビの経営陣に伝えていきます。

皆さんは、放送界に類を見ない「関西テレビモデル」を作り上げていく途上にあるのです。どうか俯くことなく、まっすぐ顔をあげて信頼回復に向けて進んで頂きたい。

幸い、皆さんの間から自発的に声をあげていこうとの機運があると聞いています。

この未曾有の危機に皆さんが心をついにできるかどうか。関西テレビの再生は、まさにこの一点にかかっています。

以上